

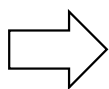
令和6年7月19日16時00分
近 畿 地 方 整 備 局
紀 南 河 川 国 道 事 務 所

くしもと
一般国道42号すさみ串本道路
事業工程会議の開催結果について

- 一般国道42号すさみ串本道路(延長19.2km)の安指川橋(仮称)の下部工事の場所打ち杭施工において、通常の掘削機では対応できない硬質岩が多数出現したため、有識者検討会を開催し、相当の時間を要するが、現在の施工方法のまま、丁寧に施工を進めていくのが妥当との意見を頂いたところです。
- 有識者の意見も踏まえ、今後の工程の見直しについて関係者間で情報共有を図るため、関係機関による「事業工程会議」を開催しました。
- その結果、硬質岩への対応のため、令和7年春開通予定としていた開通時期の見直しが必要となりました。
- 見直し後の開通時期については、今後の工事進捗状況を踏まえて工程精査し、改めてお知らせします。
- ただし、開通前の段階においても、南海トラフ地震など災害時における緊急輸送道路や津波避難場所としての活用など、地域における防災機能を強化するための方策について検討していきます。
- また、小河瀬谷川橋(仮称)のA1橋台掘削中に地盤のひび割れが発見され、対策工法の検討が必要となりました。

■開通時期の見直し

＜現在＞
令和7年春開通予定



＜見直し後＞
工程精査中

＜取 扱 い＞

＜配 布 場 所＞ 近畿建設記者クラブ
和歌山県政記者クラブ
和歌山県地方新聞記者クラブ
新宮中央記者会

大手前記者クラブ
和歌山県政放送記者クラブ
田辺記者クラブ
新宮記者クラブ

＜問 合 せ 先＞ 国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所
副所長 中村 恭介
事業対策官 滋野 勝稔
TEL 0739-22-4564(代表)

一般国道42号すさみ串本道路事業工程会議の結果

【一般国道42号すさみ串^{くしもと}本道路事業工程会議】

(日時) 令和6年7月19日(金) 10時～

(場所) 和歌山県庁

(関係機関)

近畿地方整備局 道路部

近畿地方整備局 紀南河川国道事務所

和歌山県 県土整備部

すさみ町 建設課

串本町 建設課

(議事)

- ・一般国道42号すさみ串本道路の概要
- ・一般国道42号すさみ串本道路の進捗状況と課題

(会議資料)

- ・別添

(議事概要)

- ・一般国道42号すさみ串本道路は、全線にわたって改良・橋梁及びトンネル工事を推進している状況。
- ・安指川橋（仮称）P1橋脚の場所打ち杭施工において、通常の掘削機では対応できない硬質岩が多数出現し、掘削機械の大型化等の対策を講じているが、掘削に時間を要している状況。
- ・有識者による検討会を開催し今後の対応について有識者に意見を伺ったところ、「掘削完了まで相当な時間を要すると考えられるが、現在の工法のまま、安全性を考慮し、丁寧に施工を進めていくのが妥当」等の意見。
- ・以上により、すさみ串本道路の令和7年春開通予定としていた開通時期の見直しが必要。
- ・見直し後の開通時期については、今後の工事進捗状況を踏まえて工程精査し、改めてお知らせする。
- ・ただし、開通前の段階においても、南海トラフ地震など災害時における緊急輸送道路や津波避難場所としての活用など、地域における防災機能を強化するための方策について検討。
- ・また、小河瀬谷川橋（仮称）のA1橋台掘削中に地盤のひび割れが発見され、対策工法の検討が必要。

一般国道４２号すさみ串本道路
事業工程会議

日 時：令和６年７月１９日（金）１０：００～
場 所：和歌山県庁

議 事 次 第

１．開 会

２．議 事

- ・ 国道４２号すさみ串本道路の概要
- ・ 国道４２号すさみ串本道路の進捗状況と課題

３．閉 会

一般国道４２号すさみ串本道路

事業工程会議

出席者名簿

〔敬称略〕

和歌山県	県土整備部長 (代理：県土整備部技監)	市川 泰広
すさみ町	建設課長	岡 弘貴
串本町	建設課長 (代理：建設課副課長)	堀口 純
近畿地方整備局	道路部長（代理：道路企画官）	渡邊 泰伴
	紀南河川国道事務所長	田中 雄三

一般国道42号すさみ串本道路 事業工程会議

令和6年7月19日
近畿地方整備局

事業概要

- 一般国道42号すさみ串本道路は、紀伊半島を一周する高規格道路 近畿自動車道松原那智勝浦線の一部を構成し、南海トラフ地震等の災害時の交通確保、救急医療活動の支援及び広域周遊観光の支援を目的として、平成26年度に事業化した延長19.2kmの道路
- 全線にわたり、改良・橋梁及びトンネル工事を事業中



【すさみ串本道路工事進捗状況】

工事進捗に伴う課題<安指川橋>

あざしがわばし

紀勢自動車道
(田辺～すさみ)

すさみ串本道路 19.2km

串本太地道路



■橋梁下部工事

○工事名：すさみ串本道路和深IC工事

○工事内容：橋台工：1基、RC橋脚工：2基

■橋梁上部工事

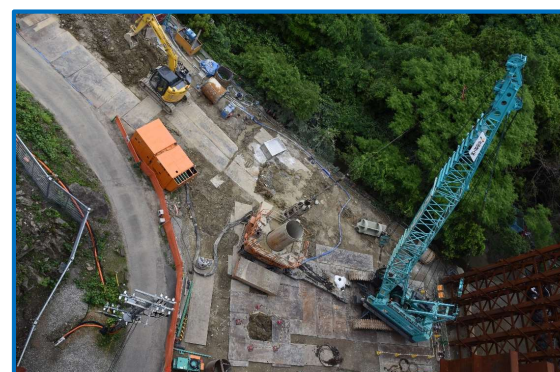
○工事名：すさみ串本道路安指川橋上部工事

○工事内容：上部工【PC 3径間連結コンポ桁橋 L=127m（最大支間長43m）】

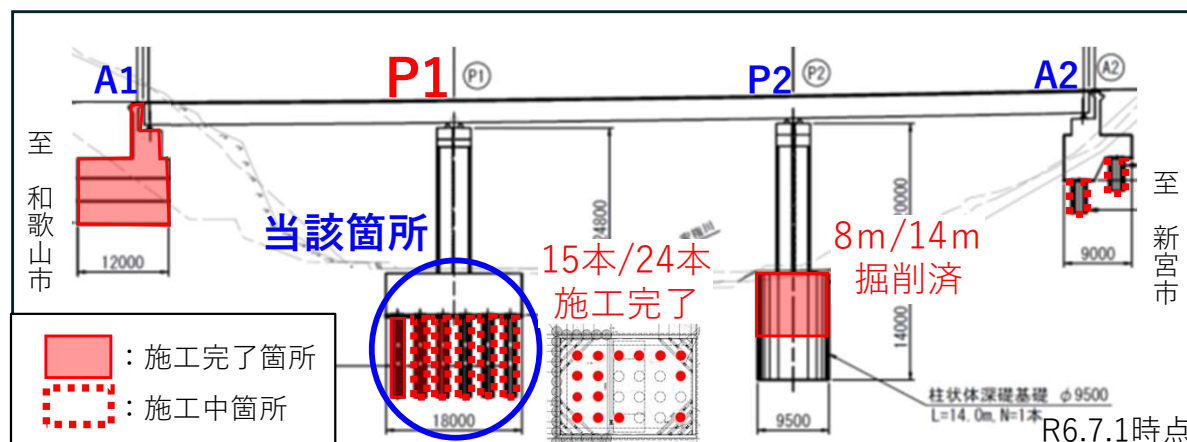
- 安指川橋（仮称）P1橋脚の場所打ち杭施工において、通常の掘削機では対応できない硬質岩が多数出現し、掘削に時間を要している状況。
- 掘削機械の大型化等の対策を講じているが、硬質岩の除去や損耗したビットの交換も行っており、通常より平均約5倍の施工時間を要している状況。



P1の施工状況（場所打ち杭）



硬質岩によりビットが損耗し掘削難航



出現した硬質岩

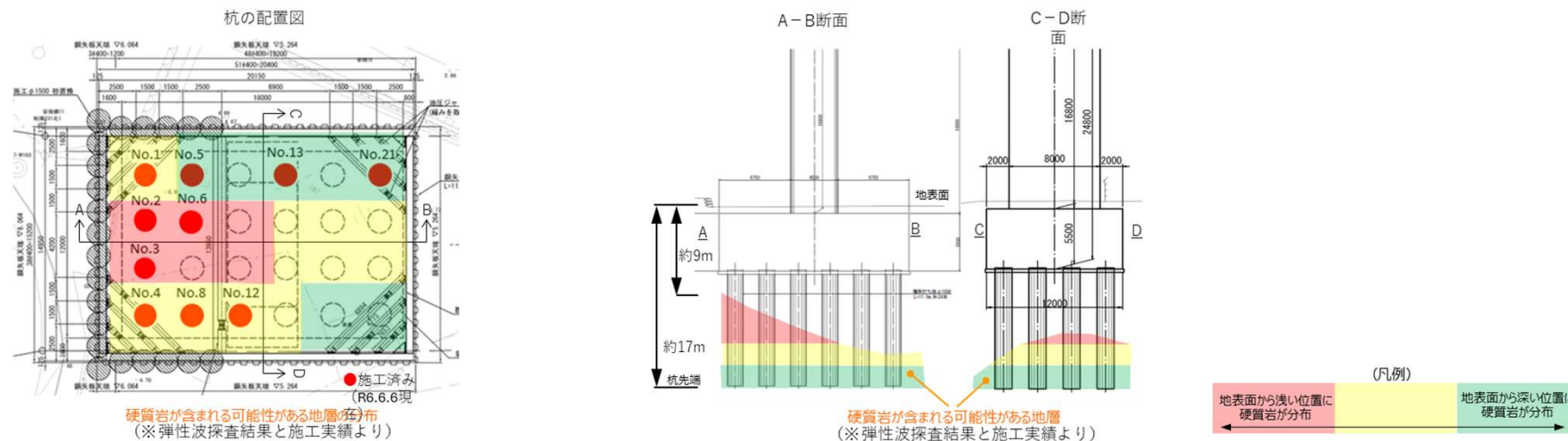


■硬質岩の分布や対策工法等について有識者に意見を伺い、今後の対応について検討を実施。

【令和6年6月24日「すさみ串本道路（安指川橋）硬質岩出現に対する有識者検討会」審議事項】

- ・弾性波探査結果等による硬質岩の分布状況の確認
- ・現在の工法の妥当性の確認
- ・基礎地盤支持層の妥当性の確認

【硬質岩の分布状況の調査結果】 弾性波探査結果（R6.6実施）と施工実績による地盤状況



■有識者の主な意見

○硬質岩の分布や対策工法について

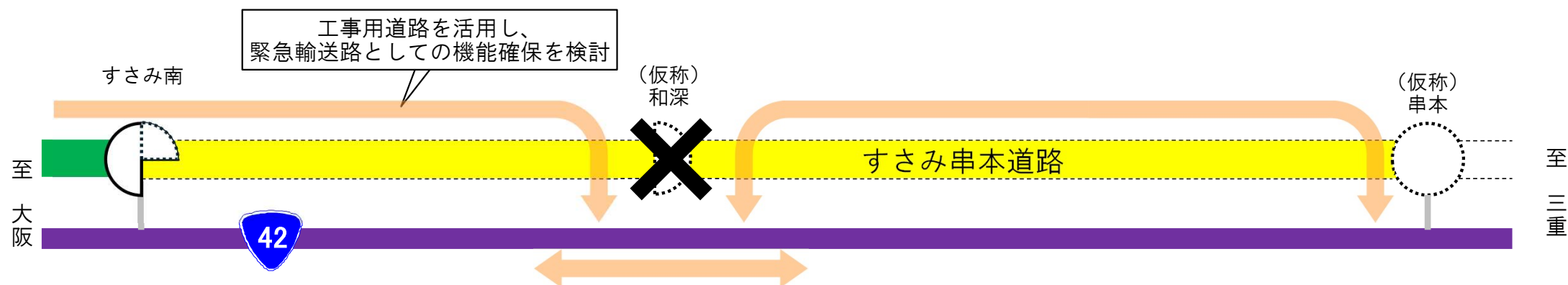
- ・事前のボーリング調査結果では、今回のような硬質岩の分布を把握することは困難。
- ・今回の弾性波探査の結果、残る施工箇所にも硬質岩が確認された。
- ・当該地域は硬質岩が入り組んだ特殊な地山のため、今後の掘削時にも硬質岩出現が見込まれ、掘削完了まで相当な時間を要すると考えられるが、現在の工法のまま、安全性を考慮し、丁寧に施工を進めていくのが妥当。

○基礎支持地盤の妥当性について

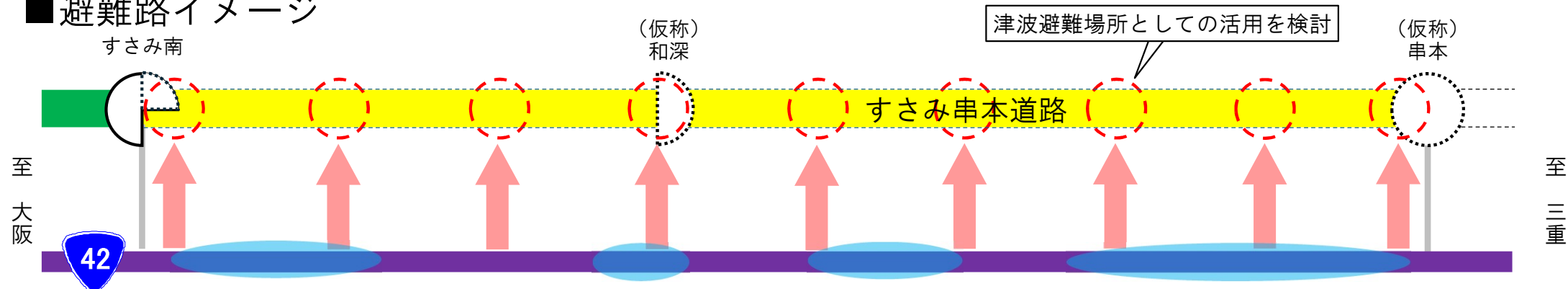
- ・今設定している基礎地盤支持層及び杭基礎の施工方法について、変更する必要はない。

開通前の段階における災害時の活用案

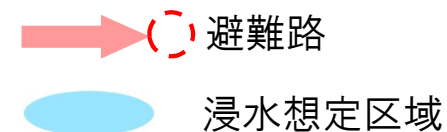
■緊急輸送路暫定運用イメージ（開通まで）



■避難路イメージ



※避難路のイメージ



※避難路は約1km間隔（設置箇所は今後検討）

開通時期について

- 一般国道42号すさみ串本道路は、全線にわたって改良・橋梁及びトンネル工事を推進している状況。
- 安指川橋（仮称）P1橋脚の場所打ち杭施工において、通常の掘削機では対応できない硬質岩が多数出現し、掘削機械の大型化等の対策を講じているが、掘削に時間を要している状況。
- 有識者による検討会を開催し今後の対応について有識者に意見を伺ったところ、「掘削完了まで相当な時間を要すると考えられるが、現在の工法のまま、安全性を考慮し、丁寧に施工を進めていくのが妥当」等の意見。
- 以上により、すさみ串本道路の令和7年春開通予定としていた開通時期の見直しが必要となりました。
- 見直し後の開通時期については、今後の工事進捗状況を踏まえて工程精査し、改めてお知らせします。
- ただし、開通前の段階においても、南海トラフ地震など災害時における緊急輸送道路や津波避難場所としての活用など、地域における防災機能を強化するための方策について検討。

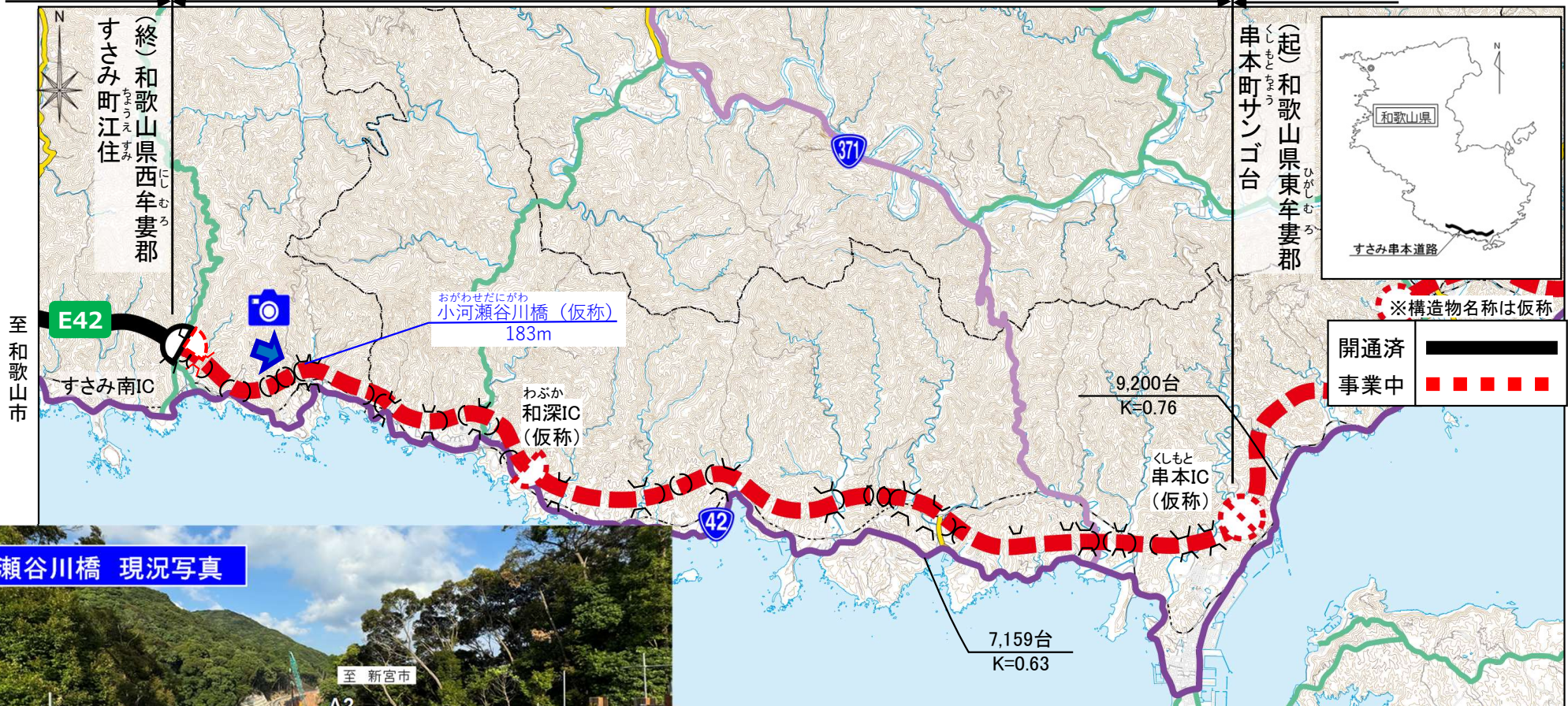
工事進捗に伴う新たな課題 <小河瀬谷川橋>

おがわせたにがわばし

きせい
紀勢自動車道
たなべ
(田辺～すさみ)

くしもと
すさみ串本道路 19.2km

くしもとたいじ
串本太地道路



小河瀬谷川橋 現況写真



■橋梁下部工事

- 工事名：すさみ串本道路小河瀬谷川橋 P 1 他下部他工事
- 工事内容：橋台工：2基、RC橋脚工：3基

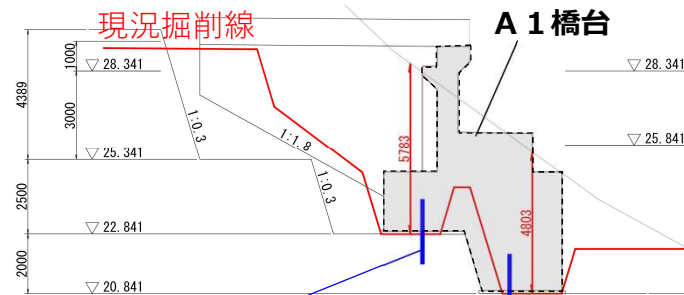
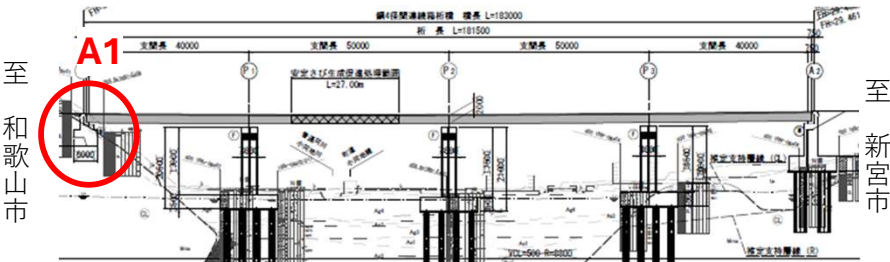
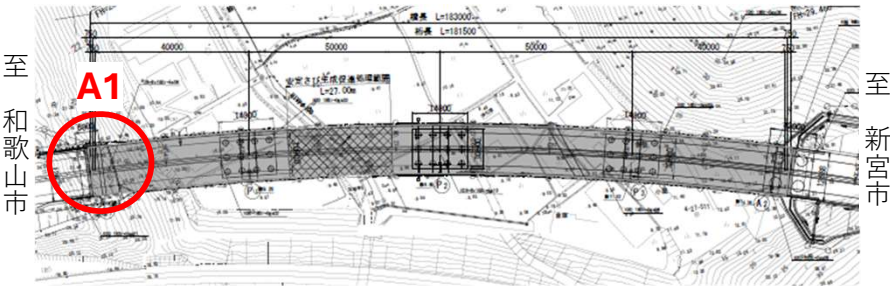
■橋梁上部工事

- 工事名：すさみ串本道路小河瀬谷川橋上部工事
- 工事内容：上部工【鋼4径間連続箱桁橋 L=183m (最大支間長50m)】

工事進捗に伴う新たな課題<小河瀬谷川橋>

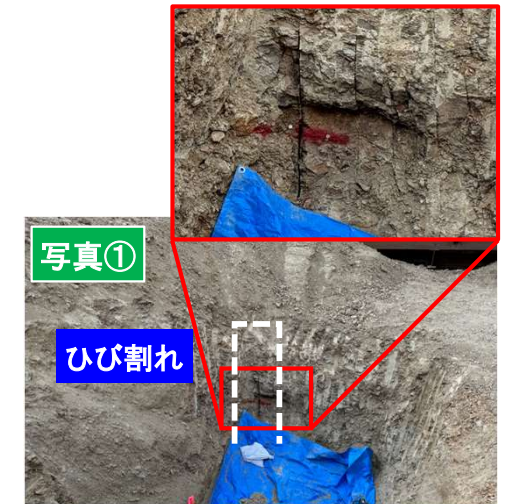
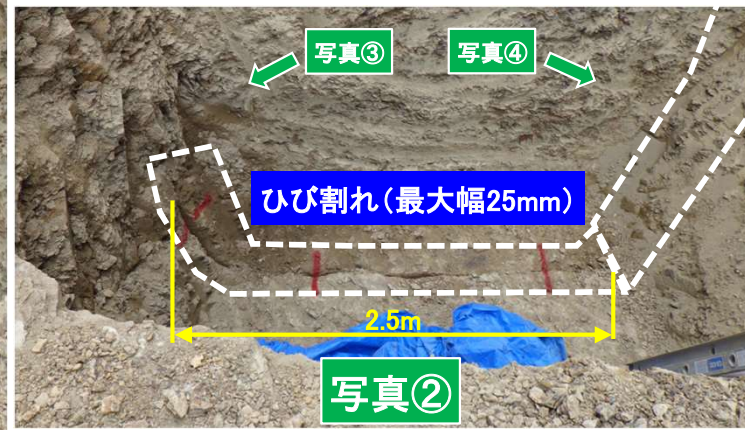
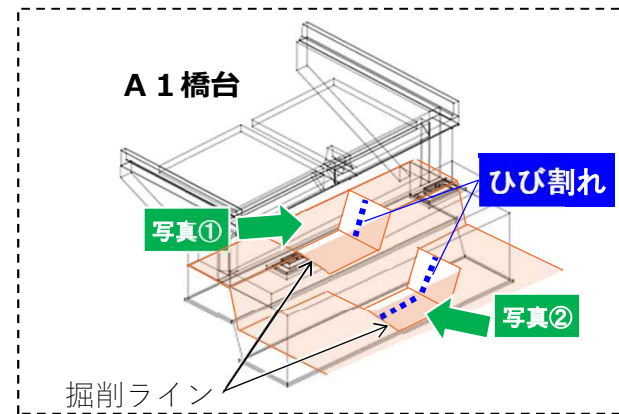
おがせだにがわばし

- A1 橋台基礎掘削中に地盤のひび割れを発見 (R6.7.9)
- 作業を中断し、有識者による現地調査を実施 (R6.7.10)



【有識者への確認内容】

- R6.7.10AM
- 和歌山高専 林和幸 教授
- 確認内容
 - ・ひび割れの原因等の調査方針
 - ・対策案等



○小河瀬谷川橋下部工事(A1)の有識者確認結果

7月10日（水）AM

■有識者意見（和歌山高専 林先生）

- ・現状亀裂のある状態でのA1橋台の工事継続は不可。
- ・ひび割れの範囲等を特定し、対策の有無を判定。無対策での施工は不可。
ボーリング調査（鉛直、水平）、ボーリング孔からのボアホールカメラ、弾性波探査等で、ひび割れの範囲を特定すること。
- ・対策としては、以下2点が考えられる。
 - ①ひび割れを有していても対策を行うことで橋台基礎の支持層として評価ができる場合
グラウンドアンカー等で対策を実施。
 - ②ひび割れ対策をしても橋台基礎の支持層として評価ができない場合
直接基礎を杭基礎に変更（深礎杭もしくは大口径深礎杭）

■今後の対応（案）

- ・ボーリング調査等により、ひび割れ範囲を早急に特定し、対策工法を検討。